

## 第6回 東洋大学地域連携シンポジウム

# 紙の仕事を聴く

## ライフヒストリーを通して知る文京区と荒川区

2012年12月1日(土) 13:00 ~ 17:30

東洋大学白山キャンパス 6号館 6310 教室

### シンポジウムの趣旨

東洋大学のメインキャンパス、白山キャンパスが位置する文京区および周辺区部は、「紙」にかかわる産業や諸活動とともに発展してきました。文京区に印刷・製本・出版業などの紙産業が発達したことと、この地が多くの学校や文学のゆかりの地であることは、相互に関連しています。文京区の「文教」イメージを支えてきたのは、紙産業であったともいえるでしょう。他方、紙のモノとしての側面に着目すると、その製造・加工・消費・再生の過程はいずれも環境問題と深く関わっています。紙と環境をめぐる問題はきわめて複雑であり、文京区・周辺区部から地球全体に至る広がりの中かで連鎖しています。

こうした認識のもと、東洋大学社会学部社会文化システム学科では、2007年度から、紙と地域と環境をめぐる諸問題を現場で考え、行動するための実践的な教育プロジェクト「紙の総合学習を通じた地域間連携——文京区を基点とする実践的臨地教育を目指して」に着手しました。軸となるテーマは、「紙の地域誌」、「紙リサイクルと市民・住民運動」、「紙と環境をめぐる地球規模の関係」の三つです。プロジェクトは、これらのテーマに関連するフィールドワークとその成果に基づいて、紙産業・紙文化を通じた地域振興ならびに紙をめぐる環境問題のローカルレベルでの解決に向けた活動計画を創案・実践し、同時に地域社会との連携をはかることを目標としています。

本シンポジウムは、前述のプロジェクトの一環として実施されます。シンポジウムは、「地域環境班」と「地域誌班」の二つのセッションで構成されます。「地域環境班」のセッションでは三河島の再生業、「地域誌班」のセッションでは小石川地区における製本関連業にそれぞれ着目し、これらの仕事に携わる方たちからライフヒストリーの聞き取りをおこない、地域社会の理解を試みました。各セッションでは、まず、本学の学生がフィールドワークを通じて得た自らの発見・知見を報告します。続いて、現場の若手事業者の方々を代表して、杉澤昌一郎氏(南杉沢正直商店)と前田敏樹氏(南三栄社)に、それぞれの学生の報告に関連するテーマについて、実際のお仕事に照らし合わせて語っていただきます。

またコメントでは、環境社会学の学びの実践のため沖縄などで学生のフィールドワーク活動を指導してこられた松井理恵氏(元日本学術振興会特別研究員)と、大学の位置する宇治の街おこしに学生とともに関わってこられた森正美氏(京都文教大学教授)に、それぞれの観点からご意見を述べていただきます。本シンポジウムでは、これらの報告を基に最後に総合討論をおこない、紙産業の将来を担う若手と大学の教員・学生との対話を通じて、紙と地域と環境をめぐる諸問題を考えるための地域連携の知的基盤を構築することを目指します。

東洋大学社会学部社会文化システム学科 紙プロジェクト教員メンバー  
植野弘子・長津一史・松本誠一・三沢伸生・山本須美子・水谷裕佳・渡邊暁子

### これまで開催された地域連携シンポジウム

- 第1回 紙と地域と環境を考える——文京区を基点とする臨地教育の試み (2007年12月8日)
- 第2回 紙をめぐる地域とネットワーク——文京区を基点とする臨地教育の実践 (2008年12月6日)
- 第3回 紙を通して結ぶ大学、地域、アジア——紙プロジェクト・学生を主体とするフィールドワークの試み (2009年12月14日)
- 第4回 紙がつなぐ人と地域と生活——紙プロジェクト・学生によるフィールドワークの実践と交流 (2010年11月27日)
- 第5回 紙に生きるひとと地域——小石川・東日暮里におけるフィールドワークと対話 (2011年12月10日)